



あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2025年6月

vol.17

企画展

「S字甕」という とても薄い甕が流行っていた件

シリーズ／発掘ファイルNo.1「貝殻山貝塚(前編)」

ミュージアム再発見「巴形銅器」

ミュージアムの草花お花実ガイド／7～9月

弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「田起こし体験」

学芸員がお答えするQ&Aコーナー

／弥生時代の地層はどれだけ深いところにある？

ミュージアムグッズ紹介／S字甕模型(A類)

弥生ムラぐらし進行中／「タデアイの種まき」他

企画展 「S字甕」というとても薄い甕が

期間 2025年4月26日(土)～6月22日(日) 場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

主旨

弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて、伊勢地域・尾張地域では、「S字状口縁台付甕」(以下「S字甕」)と呼ばれる特徴的な土器が流行しました。アルファベットの「S」のように屈曲する口縁を持ち、主に煮炊きに使われた土器です。それまでの土器に比べ非常に薄く作られており、高度な製作技術を垣間見ることができます。また、S字甕はデザインが規格化された先進的な土器であるとともに、祭祀儀礼や地域の社会情勢を反映し、ときに人々の移動・交流を物語る重要な考古学的資料でもあります。

本企画展では、S字甕の誕生から終焉までの変遷を紹介し、弥生時代から古墳時代にかけての伊勢湾沿岸の地域社会の変化について考えました。

本企画展の見どころ・ポイント

- 1 重要文化財7点を含む、朝日遺跡の主要なS字甕を展示しました。
- 2 愛知県埋蔵文化財調査センター(弥富市)、三重県埋蔵文化財センター(三重県多気郡明和町)、一宮市博物館(一宮市)が所蔵・保管する資料を展示し、S字甕の誕生から終焉までの変遷を紹介しました。
- 3 関連する講演会・講座では、S字甕を通して古墳時代初めの伊勢湾沿岸を取り巻く社会情勢について考えました。また、S字甕の特徴を知るためのワークショップを開催しました。



企画展 「S字甕」というとても薄い甕が流行っていた件

2025 4.26(土)～6.22(日)

【関連講演会等】※本展覧会は要券を要するものではありません。

5月31日(土) 12:00～15:00 「列島を駆けるS字甕－弥生時代から古墳時代へ－」
講師/原田 幹(あいち朝日遺跡ミュージアム館長)

6月8日(日) 10:00～12:00 「2世紀に登場した画期的な器・S字甕ストーリー」
講師/赤塚 次郎(NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク理事長)

観覧料 一般 300円 学生 200円
団体 250円 150円

あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県海部市朝日遺跡1番地 TEL.052-409-1467
■開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日 4月26日(土)・4月27日(日)・5月18日(日)・5月19日(月)・5月20日(火)・5月21日(水)・5月22日(木)・5月23日(金)・5月24日(土)・5月25日(日)・5月26日(月)・5月27日(火)・5月28日(水)・5月29日(木)・5月30日(金)・5月31日(土)・6月1日(日)・6月2日(月)・6月3日(火)・6月4日(水)・6月5日(木)・6月6日(金)・6月7日(土)・6月8日(日)・6月9日(月)・6月10日(火)・6月11日(水)・6月12日(木)・6月13日(金)・6月14日(土)・6月15日(日)・6月16日(月)・6月17日(火)・6月18日(水)・6月19日(木)・6月20日(金)・6月21日(土)・6月22日(日)・6月23日(月)・6月24日(火)・6月25日(水)・6月26日(木)・6月27日(金)・6月28日(土)・6月29日(日)・6月30日(月)・6月31日(火)

QRコード: <https://aichi-asahi.jp/>

企画展開催中に開催したイベント

講演会・講座

企画展をよりのしめる講演会や講座を開催

講演会

「2世紀に登場した画期的な器・S字甕ストーリー」

日時 2025年6月8日(日) 午後1時30分から午後3時まで

講師 赤塚 次郎氏(NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク理事長)

講座ヒストリーカフェ

「列島を駆けるS字甕－弥生時代から古墳時代へ－」

日時 2025年5月31日(土)

午後1時30分から午後2時30分まで

講師 原田 幹(あいち朝日遺跡ミュージアム館長)



講演会



講座ヒストリーカフェ



ワークショップ

ワークショップ

「S字甕をさわってみよう!」

日時 2025年4月29日(火・祝)、5月4日(日・祝)、5月18日(日)

①午前10時30分から ②午後1時30分から

③午後3時から (各日3回開催、各回30分)

講師 松本 彩(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)



流行っていた件

その名はS字甕！

みなさんは「S字甕」の名をきいたことがありますか？朝日遺跡からもS字甕は出土していますが、特徴的な土器であるのに、意外と知られていないように思えます。本企画展は、S字甕だけに焦点をあてたおそろく全国で初めての展示となりました。

発掘調査の際、遺物は破片の状態で出土することが多いのですが、S字甕はその特徴から、すぐにS字甕であるとわかります。ただし、全体がわかるほど破片がそろっていることは稀です。今回の展示のため、三重県、愛知県内で出土したS字甕のうち、上から下までそろっている資料をひたすら探しました。報告書に掲載されている資料写真では完全な形のようにみえても、実際に資料を確認すると資料の後ろ半分がなく、展示のために輸送する途中で破損してしまう可能性があるため、展示を断念せざるをえなかった資料も多々あります。

今回の展示では、S字甕がどのように

変化していくかが少しでもわかるようにとの思いから、壁面ケース全面にS字甕を並べました。そのほか、ちょっとかわったS字甕ということで、口縁が山陰地方の土器の影響を受けてS字状でなかったしまったS字甕、S字状の口縁をもつ手焙形土器、S字甕のミニチュア土器を紹介しました。

ワークショップでは、土器の模様、作り方、使い方の3つの観点からS字甕についての解説をおこない、また破片ならではの土器の裏面や内部も観察しました。講演会・ヒストリーカフェでは、S字甕が出土する時期や場所を追いかけることでわかる、当時の社会情勢についての話をいただきました。講演等をきいていただくことで、S字甕に対するみなさんの見る目が変わったのではないのでしょうか。

他県の博物館等の展示を見に行ったときに、「東海系の土器」として「S字甕」が1点だけ展示してある、というのを

見かけることがあります。今回の展示を見た後に、そのような展示を見つけることができれば、あなたは立派な「S字甕マスター」です。是非探してみてください。

またミュージアムショップでは、おそらく他の博物館等ではみかけないであろう、S字甕のグッズを販売しています。（担当者はすべてのS字甕グッズを机の上にそろえております！）是非手に取ってみていただくと幸いです。

（松本彩）

企画展の解説動画を放映しました



企画展中は当館本館の休憩スペースにて企画展担当者による解説動画を放映しました。

開催予定のイベント

古代体験プログラム

火起こし体験、カラフル勾玉作りに加え、月替わりで開催の土日祝限定メニューです。（写真は作例）

高坏づくり

弥生時代の盛り付け用の土器「高坏」を作ります。作った高坏はご自宅のオーブンで焼成して、小物置きにもできます。



7月
【時間】
15:00～（約60分）
【教材費】
450円
各回先着 10名

※粘土で服が汚れる可能性があります。あらかじめご了承ください。

繭玉で造花をつくろう

蚕の繭を使って造花（シルクフラワー）を作ります。制作途中で繭のつくりを間近で観察してみましょう。



8月
【時間】
15:00～（約45分）
【教材費】
150円
各回先着 10名

※体験で干枚通しやはさみを使います。小さなお子様から目を離さないでください。

鹿角で釣針づくり

鹿の角をやすりで削って釣針を作ります。完成した釣針は、アクセサリーにできます。



9月
【時間】
15:00～（約60分）
【教材費】
50円
各回先着 10名

※金やすりを使います。先がとがったものもありますので、ケガにご注意ください。



次回の企画展のお知らせ／7月19日（土）～9月15日（月・祝）にて企画展「弥生人といきもの2025 虫のおしらせ」を開催します。小学生のお子様にも読みやすい解説で、朝日遺跡出土の虫から分かる弥生時代の環境変化の話や、他遺跡の虫の痕跡、虫を表した祭祀具など、虫と人との関係史を紹介します。

貝殻山貝塚（前編）～朝日遺跡の出発点～



国指定史跡 貝殻山貝塚

あいち朝日遺跡ミュージアムの敷地内に小さな塚のような高まりがあります。この小山は、「貝殻山貝塚」と呼ばれ、朝日遺跡において最初に発掘調査が行われた場所です。また、この地点は、後に「朝日遺跡」と呼ばれる巨大な集落において、人々が最初に生活を営んだ場所でもあります。貝殻山貝塚は二つの意味で朝日遺跡の出発点となった重要な場所といえるでしょう。

1929（昭和4）年、この地域の教師加藤務は貝殻山を発掘調査し、ハマグリ、カキ、シジミを含む貝塚であることを明らかにし、その成果は、翌年刊行された『愛知県の新石器時代』に紹介されました。

昭和20年代には、個人、大学による学術調査がさかに行われ、貝塚の最下層の土器群は、東海地方の弥生土器として最も古

い様相をもつことが明らかになりました。貝殻山貝塚は、尾張地方最古の弥生遺跡として、また、西日本を中心とする前期弥生文化東限の遺跡として学界で注目されるようになりました。

愛知県は、1968（昭和43）年に貝殻山貝塚及び検見塚の二つの貝塚を県史跡に指定し保護を図ることにしました。しかし、貝殻山貝塚周辺で計画された土地改良工事により、貝殻山貝塚は存続の危機を迎えることになります。

愛知県と清洲町（現清須市）は、1971（昭和46）年3月から6月にかけて、遺跡の現況を把握するための発掘調査を行いました。この調査では、弥生時代前期から中期初頭の貝層や遺物包含層が確認され、遠賀川系土器を中心とする弥生土器の他、石器、

骨角器など、弥生時代の生活を知る豊富な遺物が出土しました。

さらに、発掘調査終了間際には、貝層から体を折り曲げた2体の人骨がみつかりました。愛知県で初めて出土した弥生時代の人骨です。



発掘された人骨

この発掘調査の成果を受け、区画道路の計画は一部変更され、貝殻山貝塚は公園として保存されることになりました。そして、文化庁との協議が行われ、1971年12月、公園として保存された10,169.4㎡が「貝殻山貝塚」として国の史跡に指定されたのです。

1975（昭和50）年、貝殻山貝塚は史跡公園として整備され、史跡のガイダンス施設である愛知県清洲貝殻山貝塚資料館（あいち朝日遺跡ミュージアムの前身）が開館しました。

（原田幹）



貝殻山貝塚（1971年撮影）



改めて知ると朝日遺跡のことがもっと好きになる?!

ミュージアム再発見

あいち朝日遺跡ミュージアムのスタッフが改めてみなさまに見てほしい注目スポットを紹介します。

今回は
ともえ がた
巴形銅器



巴形銅器・朝日遺跡(重要文化財 金属製品(青銅) 弥生時代後期)



↑これまでは巴形銅器をモチーフにしたグッズをつくりました。よく見ると当館ガラス窓にも巴形銅器があしらわれています!

初めて見られた方から「手裏剣?」と尋ねられることが多い、青銅器。たしかに単体では用途はわかりづらいですが、戦いで身を守る盾に付けるなど護身・魔除けの意味があったのではないかとされます。この奇妙な形はスィジガイという大きな貝が由来。沖縄で

は家の軒先にスィジガイを魔除けとして吊るす習慣が残っています。何気なく見ていたドラマのシーンでスィジガイを見かけた時は驚きました。弥生時代にルーツがある風習と知ると感動しませんか?!この巴形銅器は基本展示室でご覧いただけます。

知っておくと便利!
役立つことば

甕と壺

かめとつぼ

土器や陶磁器の中で、口が広く大きな容器を甕、口が小さくすばまっている容器を壺、と呼びます。弥生土器の場合、甕は主に炊飯や調理に使われ、壺は米や酒などを入れる保存容器として使われました。本誌企画展の記事でご紹介しているS字甕も甕の一種であり、日々の炊飯で使われた実用品でした。S字甕を火にかけると、胴は火を浴びスだらけになりますが、直接火が当たらない脚台にはススがつきません。壺には日常用の他、マツリで酒などを供えるため使われた祭祀用があります。特に精緻な造りであったり、絵が描かれた壺は祭祀用と考えられています。

(田中恵美)

ミュージアムの草花お花実ガイド

7~9月

あいち朝日遺跡ミュージアムを楽しむなら

季節ごとに移り変わる植栽・草花にも注目して屋外史跡も見よう!



屋外では季節ごとに入れ替わる草花に注目してみよう!



7月頃

カタバミ(片喰)

公園などによく見られる多年草で、繁殖力が強いことから、一族の繁栄を願う武家の家紋にもよく用いられました。葉にはシュウ酸が含まれており、少し酸っぱい味がしますが、この成分は銅の錆びを落とす効果があります。



8月頃

アレチヌスビトハギ(荒地盗人萩)

在来種のヌスビトハギによく似た、北アメリカ原産の外来種で、関東以西に多いとされています。園地の隅でもピンク色のきれいな花を咲かせますが、熟した種子の表面にはカギ状の毛が生えており、衣服に付くとなかなか落とせません。



9月頃

コナギ(小水葱)

東南アジアに広く分布する水田の雑草で、水草のホテイアオイの仲間です。日本には稲作とともに伝来した「史前帰化植物」と考えられており、茎や葉は古くから食用にされてきました。万葉集にも「水葱」の名で登場しています。



ミュージアム本館廊下では史跡内で注目してほしい草花を紹介する「お花実ガイド」のコーナーを設けています。植栽もヤブツバキや桑の木、シノキなど弥生時代にも通じるものを植えてあります。お花実ガイドを手に散策もできます。季節で自然に入れ替わる屋外展示としておたのしみください。



体験水田をとおして、弥生時代を体験する「弥生ムラづくりプロジェクト」。まずは、復元した木製農具を使って田起こしを行いました。

YMP
年間予定

今回はココ

田起こし

田植え

いきもの観察会

石包丁づくり

収穫

脱穀

土器づくり

土器焼き

土器炊飯

2025年

5/3



田起こし体験

「田起こし」とは、稲を植える前に、田んぼの土を掘り起こし、細かく砕く作業のことです。田起こしを行うことにより、稲を植えた時に根の成長を促進したり、雑草の発生を抑えたり…と、美味しいお米を育てるために欠かせない大切な作業です。

「弥生こどもの日」のイベントとして行いましたが、午前午後ともに大盛況!多くのお客様に体験していただきました。

2025年

4/26



ムラ仕事(畝立て)

今年も史跡貝殻山貝塚交流館前の畑にて、雑穀を育てます。まずは、土壌改良のため、畝の形を整える「畝立て」を行いました。

2025年

5/24



どろんこで代掻き

田を均す田植え前の大事な作業「代掻き」を子どもたちと泥だらけになって楽しみながら行いました!

弥生ムラづくりプロジェクトではみんなで田起こしから土器炊飯まで弥生時代の稲作体験に取り組んでいます。

おもてなしムラ人が活躍中

おもてなしムラ人活動まろく

ボランティア「おもてなしムラ人」の活動をご報告します。

2025年

3/29

交流会

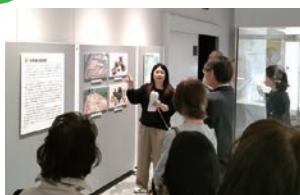


体感!しだみ古墳群ミュージアムのボランティアさんも一緒に清洲城の桜まつり、城下町遺構を散策しました。

2025年

4/26

展示解説



企画展の初日におもてなしムラ人の研修として担当芸員による展示解説を実施。S字甕の世界は深い!

2025年

4/26

堆肥づくり



今年度は、「堆肥づくり」にも挑戦!出来上がった堆肥は、体験水田や史跡貝殻山貝塚交流館前の畑に撒いていきます。

ボランティア(おもてなしムラ人)に興味がある人はお気軽にスタッフまでお声がけください。

あいち朝日遺跡ミュージアムの取り組み

当館の様々な取り組み事例紹介

廊下での掲示や施設連携のことなどを紹介。

2025年

3月末

名古屋芸術大学写真クラブ展示



名古屋芸術大学写真クラブによる写真展示を当館本館内に行いました。ふだん考古に接していない若い学生ならではの目線でミュージアムのあちらこちらを撮影してくれました。来館者でカメラに詳しい人からも、写真の構図やテクニックなど好評の声が聞けました。

2025年

3/15

清須プロギング



地元清須市のみなさんと市内の美化活動を実施。朝日遺跡の遺構や清洲城を巡るコースを歩きながら、ゴミ拾いをしました。市内の小中学生から大人まで参加して、自分たちが住む町の魅力再発見にもなり、たいへん有意義なイベントとなりました。

上記のほか様々な施設間の連携をおこなっています。当館と施設連携ご希望の方はお気軽にご相談ください。





学芸員がお答えする弥生の Q & A コーナー

日々、ミュージアムでいただく「質問カード」に学芸員が回答し館内で随時掲示しています。その中から「これは!」という質問をピックアップして解説するコーナーです。(皆さんもぜひ当館を観覧して質問カードを書いてくださいね。)

答える人
あいち朝日遺跡
ミュージアム
学芸員 宇佐見守



Q 弥生時代の地層はどれだけ深いところにある?

A 2000年前の地表がどれくらい深いのか気になりますよね。まず土の層ができる理由は、大きく二つあげられます。一つは、人為的なもの。朝日遺跡周辺はかつて田畑の広がる田園地帯でしたが、今はその多くが埋め立てられ、住宅や工場が建っています。埋め立てに使われた土は他の場所から人が持ち込んだもの。このように日本人は昔から、埋め立てを繰り返しながら生活環境を整え地面を高くしてきました。朝日遺跡でも表土から弥生時代の層までの間に江戸時代の耕作土、中世の層、古墳時代の層と各時代の層が堆積していることがわかっています。そして地層をつくるもう一つの要因は、自然

現象です。一般的に高い場所の土砂は雨や風により削られ、低い場所に堆積します。朝日遺跡は低地にある遺跡のため、川の上流から運ばれてきた土砂などによって、長い年月を経て遺跡の大部分は地下に埋もれています。これらを踏まえて当館屋外にある貝塚断面の写真パネルをご覧ください。ここでは地表から約40cm下で弥生時代の貝層が現れました。つまりこの周辺では1mも掘れば弥生時代の土層が現れることがあります。意外と深くないと思いませんか。現代の地表のすぐ下に遺構が眠っていると知らず、むやみに掘り返すことが大事な遺跡を傷つけるかもしれません。遺跡をまもるために気をつけたいですね。



土層断面図(部分)
キッズ考古ラボの東壁には土の堆積状況をイメージできるイラストが描かれていますので、ぜひご覧になってください。



インクルーシブなミュージアムをめざして...

テーマ:誰もが楽しみながら知識を得られる博物館

※「インクルーシブ(inclusive)」は、「包摂(ほうせつ)的な」「包括的な」「すべてを包み込む」を意味することばです。

あいち朝日遺跡ミュージアムは、博物館の「難しそう」というイメージを払拭して「楽しそう」としてもらえるよう取り組んでいます。館内には資料の見どころをお話ししたくてうずうずしているスタッフがいますので、ぜひ、ご来館の際にはお声がけください。また、クイズラリーを解きながら、楽しんで施設内を巡っていただくのもオススメです。



ミュージアムグッズ

来館の記念にオススメの一品をご紹介します



S字甕模型(A類) / 900円
モデル:S字状口縁台付甕 朝日遺跡
企画展に合わせて制作。ミニチュアではあるが、実測図をもとに口縁の「S字」はもちろん、脚台内側の「折りかえし」もしっかり再現されている。担当学芸員お墨付の商品。



セットでまわると理解が深まる＆お値打ち!

共通券がお得です

清洲城の歴史、または古墳時代など連携施設とセットで巡れば学びも2倍。年パスもオススメ!

Common
admission
ticket

2025.04~

清洲城

一般 550円



織田信長の居城として有名な、清洲城。歴史好きな方は清須の史跡として朝日遺跡と清洲城をセットで巡るのもオススメです。

☎052-409-7330
愛知県清須市朝日城屋敷1-1

体感!しだみ古墳群ミュージアム

一般 400円 / 高大 300円



国史跡・志段味古墳群を紹介するミュージアム。この地域の歴史を学ぶなら朝日遺跡とセットで古墳時代の史跡もめぐってみよう。

☎052-739-0520
名古屋守山区大字上志段味字前山1367

あいち朝日遺跡ミュージアム 年間パスポート

講演会やイベント等で
当館に何度も来館されるなら
かなりお得です!

一般 1,000円 / 高大 600円

希望者には、おしらせメールも配信しています。
さらに高大生は年パスキャンペーンを実施中!



あいち朝日遺跡ミュージアムで取り扱うミュージアムグッズのうち図録や常設展示案内の一部をインターネットで購入することもできます。考古学・歴史専門書店「六一書房」の公式WEBサイトをご覧ください。https://www.book61.co.jp/

ここから企画が実現する?! スタッフによる 弥生ムラぐらし 進行中

作業の様子を
ご覧いただけます!



弥生人の生活を想像して、いろいろなことにスタッフが挑戦する企画。うまくいけばみんなと一緒に楽しめる企画として実現するかも?!みなさんが知ってる弥生体験、情報提供もお待ちしております。

1 タデアイの種まき

弥生時代、弥生人は衣をまとい、染色をしていたようです。そんな弥生ファッションを現代の私たちが追体験するべく繊維の原料となる植物カラムシを育てたり、染料として身近なところでタデアイを育て始めました。おたのしみに!(注:弥生時代にはまだ藍染^{あいぞめ}はなかったと考えられます)。



カラムシやタデアイは史跡貝殻山貝塚交流館前の花壇で育てています。成長を見守ってください!

2 繭から糸取り

蚕の繭から繊維をとる実験を行いました。蚕の繭は絹の原料ですが、どのように繊維をとるのか、まずはスタッフで実施。体験にかかる時間や手間などを測り、体験講座にできないかを考えていきます。



絹繊維の抽出実験 蚕の繭を煮て、繭から繊維を取り出している様子。
※とろろこんぶではありません。

みんなの こえ



来館者の皆さまからたくさんのご意見、ご感想、よろこびの声をいただいています。その一部を紹介します。

博物館という敷居が高かったのですが来てよかった。各種イベントももしろうなので今度は甥っ子を連れて来てみたいです。
(京都・女性)



私自身、大学時代の専攻が古代史で子どもたちに古代を身近に感じてほしくて連れて来ました。ここは見学施設として素晴らしいです。
(瀬戸市・男性)



松山から来ましたサヌカイトは四国の石のイメージだったのでここで見られるとは思わなかったです!清洲城とセットでとても勉強になった。
(愛媛県・女性)



少し前に豊田市博物館で縄文土器を見て、弥生時代のことを調べにこちらに来ました。弥生土器は実用的な感じでまた違いますね。
(豊田市・小学5年生)



史跡貝殻山貝塚交流館では図書コーナーにおもしろい資料がたくさんあるので思わず読んでしまい、時間があっという間に過ぎてしまいました。
(清須市・女性)

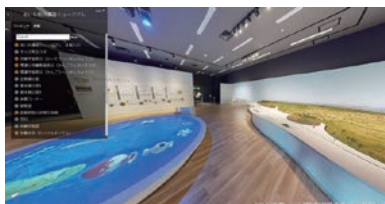


清洲城から共通券で来ました。キッズ考古ラボの農具、銅鐸、外の竪穴住居はよくできたレプリカですね。サクラのきれいな時期でうれしいです。
(台湾・男性)



あいち朝日遺跡ミュージアムの情報は 公式WEBサイトやSNSをご覧ください! 随時発信中です。

公式WEBサイト



<https://aichi-asahi.jp/>

企画展やイベントの開催概要、講演会・講座の申し込み、学校・団体観覧の事前申込、バーチャルオンラインツアーなどもご覧いただけます。

SNS(X,instagram,Facebook)



ミュージアムからのお知らせ、日々のつぶやきを投稿しています。フォローよろしくおねがいします。

<https://x.com/AichiAsahiSite>



写真映える情報を中心に投稿しています。1日限りのショート動画などもお見逃しなく。

<https://www.instagram.com/aichi-asahisite/>



受付中の講演会・講座の応募、団体申込も公式WEBサイトから好きなタイミングで応募ができて便利。



月替わりの古代体験プログラムのメニューや、イベント告知などもチェックしてみてください。



すでに体験水田でのコメづくり、土器づくり、土器炊飯は当館で毎年恒例行事となっていますが、ほかに弥生時代には植物を育てて縄んだり、染色をしていたと考えられます。そうした弥生人のような生活がどこまでできるのかスタッフで実験しています。うまくいくのかどうか、そんな試行錯誤の様子も紹介していきます。